

---

# MOON-4 夜叉 3 < 1 8 >

みづき海斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MOON - 4 夜叉 3 <18>

### 【Zコード】

Z0514Z

### 【作者名】

みづき海斗

### 【あらすじ】

新宿へ戻った裕希を迎えたのは桜に記憶を奪われた秀だった。裕希は自分の力で秀を取り戻せないか考える。そして、帝王の『権利保持者』である桜の奇怪な動き…

『夜叉』 第3部の始まりです。

1・君がいない - 1 (前書き)

今日は「ホラー 2010」解禁日ですねーーー！

# 1・君がいない・1

“君の中で時を刻むR h i s m  
いつか消える日まで響き合つようにな  
愛しさずっと零れおちないで  
輝いて欲しい・・・・・  
闇の中彷徨う陽炎”

裕希は走った。

(今、ここで秀さんに捕まるわけにはいかない！)  
成城の自宅へ戻れば、市子にも危害が及ぶかもしれない。そして  
学校へ戻つても・・・・・  
彼は誰時かわかれを迎えた新宿の街は、仕事から解放された人々で賑わつ  
ている。

(紛れていれば安全?)

かつてバイトをしていたA L T A 沿いのM A Cで時間を潰す。

「どうしたの？ 裕希くん。」

香が最初に気付いた。「何かいいバイト先でも見つかったの？」  
そう問い合わせる彼女に、

「そんな事ないよ。」

ポテトをつまみながらそう答える。

バイト先にはもう前に、和人が、

『昼も一緒にいた方がいい。』

と、言ってからずつとバイトを休んでいた。

心配そうな顔の香に、

「大丈夫だよ、また帰つて来るから。」

笑顔で答える。

(今日は父さんがやつてるホテルに泊まるか・・・・・  
桜は新宿けっかいの中や外を自由に入り出できる。)

(本当に吸血鬼なのかな?あの2人の事は俺にもよく判らないけど。)

あの日、裕希は朝子と車で『あの場所』へ行き、そして和人が桜に『香木』で倒されたのを見た。

いくら帝王でも桜の樹で作った『香木』をその身に受けたらどうなるかもよくは判らない…あの日はそのままマンションへ戻り、朝子の言う通り成城の自宅へ帰る事になった。それが今では、大町のマンションさえ売りに出されてるらしい。

“分かち合うもの何もないけど

気持ちが溢れて きっとそれでいいよね

たとえ間違いでも

眩しい光にも負けぬように

力強くその羽根を打て Get On The Rhism”

(もっと強くならなくちゃ。)

裕希は思つた。(朝子さんや和人を守つて秀さんを桜の手中から取り戻すために。)

少年は、大人へと成長していた。

夜、MACを後にすると近くにある父がオーナーを務めるホテルに行こうとした。

カードだけは持つて来ていた。

(桜はきっと俺を襲つて来るに違いない。でも、何故、桜は『帝王にならない?』

疑問だけが残つた。

和人を倒せば、その『権利保持者』の桜が帝王になつてもおかしくない。

しかし、『闇』は微妙なバランスを保つている。

まるで、和人の一族と九桜の一族が対峙するように。

そして、秀。

新宿御苑近くの一 流ホテルのロビーア 入り裕希は考える。

(桜は秀さんを欲しがっていた。だから、和人を倒そうとした。)

ロビーア 受け付けを待ちながら、

(『帝王』になる気持ちもないみたいだ - - あの桜つて子。例えば、子供がおもちやを強請る様な感じだった。)

「裕希様。」

ロビーア から声がかかつた。「お部屋を」と用意致しました

黒いスーツに身を包んだ男性だった。

「ありがとうございました。」

裕希はソファから立ち上がり、 GOLD CARDを差し出す。

「父さんにはちょっと内緒にしておいてくれる?」

裕希が篠原家の者だという事はカウンターで手続きをした時から判つていた。

「承知しました。」

男性はそう言い、銀色の鍵を手渡した。

「12階で12ぞこます。」

「ごめんね、予約もなしに。」

「いえ、部屋はいつも篠原様の為にキープしてありますから。」

「うん、判つた。」

裕希は鍵を握り、「ちょっと長く滞在するかも知れないから。」

「はい。」

「後は何もいらぬよ、眠れればいいだけだし。」

「かしこまりました。」

男性は立ち去る裕希に深々と頭を下げた。

その少年の背中へ、

「どうぞ、良い夜を。」

紅の両眼が、そう告げた。

## 1・君がいない - 1 (後書き)

今度は F T I S L A N D のCDを買ってしまった。  
10 / 2 のMUSIC 緊縮 (^ ^)。。。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0514n/>

---

MOON-4 夜叉 3 < 1 8 >

2010年10月17日06時58分発行